事例No.	2260
公表年度	R4
団体の属性	特別区
団体名	東京都杉並区

事例区分	DX

タグ	・交通事業 ・EBPM ・ICT

事例種類	DX

事例内容・タイトル

ビッグデータ（ETC2.0プローブデータ）を活用した交通安全対策の取組

出典

地方自治研究機構：自治体D X におけるデータ利活用及びEBPMに係る調査研究（令和３年度）

＜調査研究事業：自治体 DX におけるデータ利活用及び EBPM に係る調査研究（令和３年度）＞

〇自治体 DX

・データ利活用及び EBPM

取組団体：東京都杉並区

取組内容：ビッグデータ（ETC2.0 プローブデータ）を活用した交通安全対策の取組

１．杉並区の概要

人口：570,598 人（令和５年２月１日時点）

職員数：3,526 人（令和４年４月１日時点）

総面積：34.06 ㎢

杉並区の位置図

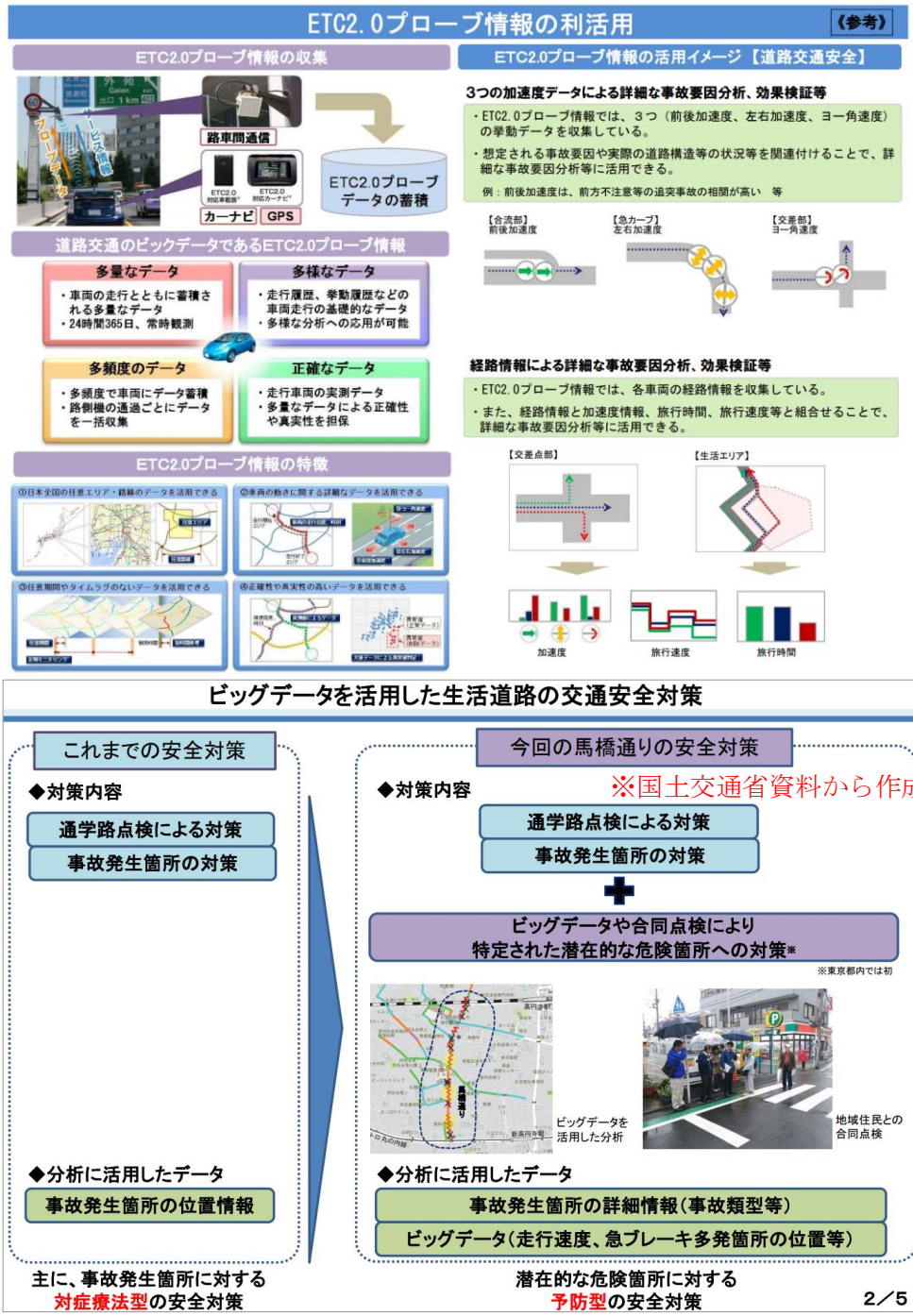


出所：杉並区ホームページ

２．取組の背景・目的

・何の課題を解決しようとしたか？

国土交通省東京国道事務所からビッグデータ（ETC2.0 プローブ情報）による分析結果の提供を受け、視覚的に交通の状況を把握することで、これまで進めてきた「対症療法型」の安全対策から「予防型」の安全対策に取り組むことが可能となった。



出所：杉並区資料

取組の背景は以下の２点がある。

①生活道路の交通安全確保に向けた取組について国土交通省より協力の依頼があったこと。

②道路網の計画的な整備を計画した「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」を策定するタイミングであり、データを利用して道路の危険箇所の抽出に活用可能であると考えたこと。

３．取組の内容

・ETC2.0 プローブ情報の利活用

国土交通省東京国道事務所から提供された ETC2.0 プローブ情報による分析結果を用いて、区内の生活道路における急ブレーキ箇所や走行速度から事故が発生する可能性がある潜在的な危険箇所を把握した。その後、小学校、PTA、警察、地元関係者などと危険箇所を実際に見て回り、どのような対策が有効かを課題整理・検討し、効果的と考えられる交通安全対策を立案している。



出所：杉並区資料

なお、杉並区では、イメージハンプや自転車走行の注意喚起等、道路に具体的な対策を実施し、対策の結果、車両の挙動にどのような変化があったのかも平成 31 年度に国土交通省東京国道事務所からデータ提供を受け検証している。

４．成果・課題

・成果

対策路線の車両の挙動を知ることにより、潜在的な危険箇所の抽出が可能となり、そこに対する対策を打ち、結果として事故発生件数は減少したので一定の効果があったと評価している。一方、具体的にどの取組が事故発生件数の減少に直接的につながっているかの評価は難しい。

また、どの要素が増加する（減少する）ことで事故発生件数の増加（減少）につながるかという関係にも留意する必要がある。例えば、急ブレーキ発生件数は増加しているが、結果として事故発生件数は減少している場合には、自動車の急ブレーキ発生件数の増加が事故発生件数を減少させているのか、その他の関係性にあるのかを丁寧に検討する必要がある。

【参考】

杉並区ホームページ（ビッグデータを活用した交通安全対策）

https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/machi/douro/1050444.html

杉並区ホームページ（杉並区の生活道路で、ETC2.0 データの分析と合同点検結果から計画した交通安全対策を実施します～ビッグデータを生活道路の交通安全に活用～）

https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/031/523/290323bigdetawokatuyousikoututaisaku.pdf